

県内復興・経済日誌 (2021年10月)

1日

《県内31歳元が「東北復興宇宙酒」醸造》

「東北復興宇宙ミッション2021」の一環で、「宇宙酵母福島帰還と宇宙酒仕込開始報告会」が行われた。「東北復興宇宙酒」は、東日本大震災から10年の節目に宇宙を旅した福島県オリジナル酵母「うつくしま夢酵母」で日本酒を醸造する計画で、県内31歳元が醸造し早ければ年内にも販売が始まる。

8日

《南相馬市でロボサミット開幕》

国内外の研究チームがロボット技術力を競う「ワールドロボットサミット2020福島大会」が、南相馬市原町区の福島ロボットテストフィールドで開幕した。国内外の29チームのうち本県からは南相馬市と会津大（2チーム）の計3チームが出場し、福島の技術力を世界に発信した。

13日

《ご当地パンランキング、クリームボックス3位》

旅行情報誌「じゃらん」の発行や旅行宿泊予約サイト「じゃらんnet」を運営するリクルート（東京都）が、「全国発売してほしい！ご当地パンランキング」を発表し、本県からは郡山市発祥の「クリームボックス」が3位に入った。

14日

《県内初、水素タクシー運行》

郡山観光交通（郡山市）が、県内のタクシー業者で初めて水素燃料電池自動車（FCV）1台の運行を始めた。国土交通省の地域交通グリーン化事業の補助対象に採択され、事前予約によるハイヤーとして運用する他、県内の水素エネルギー関連施設などを巡るツアーの移動手段や県内小中高校向けの水素啓発活動などにも利用する。

18日

《集材材製造拠点、浪江町に完成》

浪江町が棚塩産業団地に整備している木材製品生産拠点「福島高度集材材製造センター」の機械設備が完成し、現地で完工式が行われた。中・大規模木造建築向け集材材の製造工場としては国内最大級で、2021年度中に操業を始める。

20日

《いわき市でバッテリーバレーフェスタ開催》

定置型燃料電池や試作燃料電池車の展示会が、いわき市の三崎公園で開催された。蓄電池産業の集積と利活用の機運を高める「いわきバッテリーバレーフェスタ2021」のイベント第2弾で、水素燃料電池自動車（FCV）のマイクロバス試乗体験コーナーも設けられ、来場者が水素エネルギーの可能性を体感した。

21日

《県内高卒就職内定率64.7%》

県が公表した来春卒業予定の県内高校生の就職内定状況によると、9月末時点の内定率は64.7%で、同月末の内定率としては記録が残る過去20年間で最高となった。就職希望者4,085人のうち2,645人が内定、このうち県内企業に内定したのは2,222人（県内留保率84.0%）だった。

24日

《県内初の震災遺構「請戸小学校」開館》

浪江町が町内の請戸地区に整備を進めてきた県内初の震災遺構「浪江町立請戸小学校」が開館した。同施設は東日本大震災の爪痕が生々しく残る校舎であり、町が震災遺構として保存のうえ一般公開し、児童・教職員の被災体験などを紹介するなど、震災と原発事故の記憶と教訓を後世に伝える。

25日

《県内教育旅行、過去最少》

県が発表した2020年度の「福島県教育旅行入込調査報告書」によると、学校数は1,823校、延べ宿泊者数（県内外の小学生～大学生）は99,361人で、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受け、2002年の調査開始以来最少となった。

29日

《白河市と那須町、観光誘客で連携》

白河市と栃木県那須町は、両市町の対象施設を巡りスタンプを集める初の連携事業「那須白河女子旅 de 魅力発見！デジタルスタンプラリー」を始めた。発酵グルメや癒しの体験を通して「ココロとカラダを美しく」をテーマに周遊型の観光誘客を目指す。